

Asia Medical Massage Instructors Network

第1回AMIN海外講習会 報告書

場所:ラオス・カンボジア

期間:平成19年3月9日～14日

目次

1. 全体スケジュール
2. 講義日程
3. 参加者名簿
4. ラオス講義内容
 - 4-1. 第1日目(3月10日(土))
 - 4-2. 第2日目(3月11日(日))
5. カンボジア講義内容
 - 5-1. 第1日目(3月12日(月))
 - 5-2. 第2日目(3月13日(火))
 - 5-3. 第3日目(3月14日(水))
6. その他
 - ・日本における障害者のあんまマッサージの事情(別紙1)
 - ・日本における障害者のITの事情(別紙2)
 - ・報道新聞記事(別紙3)
 - ・現地送付物(別紙4)
 - ・ラオス、カンボジア写真集(別紙5)

主催： 国立大学法人 筑波技術大学

協賛団体： 日本財団

後援団体： ラオス盲人協会
カンボジア盲人協会
Asian Development with
Disabled People (ADDP)

事務局： 国際視覚障害者援護協会

開催時期及び開催場所

- ①平成19年3月9日～11日
- ②ビエンチャン(ラオス人民民主共和国)

Lao Plaza Hotel

- ①平成19年3月12日～14日
- ②プノンペン(カンボジア王国)

Goldian Hotel

1. 全体スケジュール

日程

集合場所、時間：3/9(金)全員、成田空港 第1ターミナル 南ウイング Eカウンター付近に8時半に集合。

① 按摩講習会日程：

形井秀一、藤井亮輔、坂井友実、山口和彦、松田信治（5名）

・3/9（金）

（成田 → バンコク（10:45発 15:45着）TG641 便(タイ航空)

バンコク→ビエンチャン(19:20発 20:30着)TG692 便(タイ航空)

1泊目(ビエンチャン:Lao Plaza Hotel)

・3/10(土)

午前:打合せ(9時半から12時) 昼食 午後:開講式、オリエンテーション、講習 5時終了

* 5時半から坂井元大使との食事会(ADDP, 今回参加者)

2泊目(ビエンチャン:Lao Plaza Hotel)

・3/11(日)

午前:9時講習スタート 昼食(現地参加者との交流会) 午後:1時半より講習
16時 終了 閉講式。評価会議

3泊目(ビエンチャン:Lao Plaza Hotel)

・3/12(月)

ビエンチャンの空港に8時集合。

ビエンチャン → プノンペン(10:10発 11:40着)VN841 便(ベトナム航空) 昼食は空港でとる。

午後2時半からカンボジア盲人協会見学(合同)。打合せ。

4泊目(プノンペン:Goldian Hotel)

・3/13(火)

講習 午前9時:開講式、オリエンテーション 講習 昼食 午後1時より
講習 5時終了

夜:現地参加者との交流会

5泊目(プノンペン:Goldian Hotel)

・3/14(水)

午前9時:講習 昼食 午後1時より講習 閉講式。評価会議(午後4時まで)
プノンペンの空港に18時半集合。

プノンペン → バンコク(20:40発 21:45着)TG699 便(タイ航空)

バンコク → 成田(23:40発 7:30着)TG642 便(タイ航空):6泊目(機内)

・ 3/15(木)

朝、7:30成田着、解散。

② IT講習会打合せ会議日程:長岡栄司、加藤英司、小野瀬正美(3名)

・ 3/9(金)

成田 → バンコク(10:45発 15:45着)TG641 便(タイ航空)

バンコク→ビエンチャン(19:20発 20:30着)TG692 便(タイ航空)

1泊目(ビエンチャン:Lao Plaza Hotel)

・ 3/10(土)

午前:打合せ(9時半から10時半)→ ITワークショップ見学、意見交換
(シンサイ氏) 昼食(外で)

12時半頃までにホテルに戻る。午後:開講式、オリエンテーション、講習
(JICA カフェで行う予定の参加者にホテルへ来てもらう) 5時終了

* 5時半から坂井元大使との食事会(ADDP, 今回参加者)

2泊目(ビエンチャン:Lao Plaza Hotel)

・ 3/11(日)

午前9時 トンポン(ライトハウス)見学、 昼食(現地参加者との交流会)

午後2時から視覚障害施術者に対するヒヤリング調査(マッサージ業の現状とIT利用のニーズについて)

3泊目(ビエンチャン:Lao Plaza Hotel)

・ 3/12(月)

ビエンチャンの空港に8時集合。

ビエンチャン → プノンペン(10:10発 11:40着)VN841 便(ベトナム航空)

午後2時半からカンボジア盲人協会見学(合同)。打合せ後、空港に直行。

プノンペンの空港に18時半集合。

プノンペン → バンコク(20:40発 21:45着)

バンコク → 成田(23:40発 7:30着)TG642 便*タイ航空:4泊目(機内)

・ 3/13(火)

朝、7:30成田着、解散

2. 講義日程

①ラオス:

【ラオス】(基礎コースⅠ)

○第1日 2007年3月10(土)

10:00~12:00 打合せ

12:00~13:00 昼食

13:00~14:00 開講式

主催者挨拶

ラオス盲人協会挨拶

講師紹介

受講者の自己紹介

13:30~13:40 オリエンテーション

14:00~14:40 日本における視覚障害者のマッサージ事情

14:40~15:20 日本における視覚障害者のIT事情

15:20~15:30 休憩

15:30~17:00 日本あん摩入門(演習)

衛生管理(手洗い、爪のケア、衣服の清潔、施術室の衛生など)

基本用語(体表解剖、手の部位、体位、運動の方向など)

日本あん摩の基本手技(軽擦法、揉捏法、圧迫法、叩打法など)

17:00 終了

○第2日 2007年3月11日(日)

9:00~ 9:50 復習(演習)

基本用語の復習

基本手技の復習

9:50~10:00 休憩

10:00~12:00 腰背部のあん摩実技(1)

12:00~13:30 昼食

13:30~14:30 腰背部のあん摩実技(2)

14:30~15:30 グループ演習

15:30~15:40 休憩

15:40~16:00 閉講式

16:00 終了

16:00~16:30 評価会議

②カンボジア:

【カンボジア】(基礎コースⅠ)

○第1日 2007年3月12日(月)

14:30~15:00 カンボジア盲人協会施設見学

15:00~16:30 打合せ会議

○第2日 2007年3月13日(火)

9:00~ 9:30 開講式

主催者挨拶

カンボジア盲人協会挨拶

講師紹介

受講者の自己紹介

9:30~10:30 日本における視覚障害者のマッサージ事情

10:30~10:45 休憩

10:45~12:00 日本あん摩入門Ⅰ(演習)

衛生管理(手洗い、爪のケア、衣服の清潔、施術室の衛生など)

12:00~13:00 昼食

13:00~14:30 日本あん摩入門Ⅱ(演習)

基本用語(体表解剖、手の部位、体位、運動の方向など)

日本あん摩の基本手技(軽擦法、揉捏法、圧迫法、叩打法など)

14:30~14:40 休憩

14:40~16:30 腰背部のあん摩実技(1)

16:30~17:00 質疑応答

17:00 終了

○第3日 2007年3月14日(水)

9:00~ 9:50 復習(演習)

基本用語の復習 基本手技の復習

9:50~10:00 休憩

10:00~12:00 腰背部のあん摩実技(2)

12:00~13:00 昼食

13:00~14:30 グループ演習

14:30~14:40 休憩

14:00~14:45 質疑応答

14:45~15:15 閉講式

15:30 終了

15:30~16:00 評価会議

3. 参加者名簿

<日本>講師:6名

NO	所 属	氏 名
1	筑波技術大学保健科学部教授	形井 秀一
2	同学部教授	坂井 友実
3	同学部助教授	藤井 亮輔
4	筑波技術大学障害者高等教育支援センター教授	長岡 英司
5	同センター教授	加藤 宏
6	同センター技官	小野瀬 正美

<日本>事務局:2名

1	国際視覚障害者援護協会事務局長	山口 和彦
2	同協会職員	松田 信治

.....

<ラオス> 受講者:10名

NO	氏 名	グループ NO	性別	視 力	マッサ ージ歴
1	Mr.Siphai Khiemsounthone	1	男	弱視	10年
2	Mr.Xaysomphou Phounsalith	1	男	全盲	8年
3	Mr.Vongsak Soneseng	2	男	弱視	3年
4	Ms.Bounlap Xayasen	3	女	弱視	4年
5	Ms.Khambang Sihalath	3	女	全盲	11年
6	Ms.Vongmath Sihalath	4	女	全盲	7年
7	Mr.Thongdy Xanasone	2	男	全盲	6年
8	Mr.Monekham Bounluexay	5	男	弱視	2年
9	Mr.Vongsouvanh Souththam	5	男	全盲	2年
10	Ms.Phitsamay Thippachak	2	女	全盲	4年

<ラオス>通訳:4名

NO	氏 名	性別
1	Mr.Khamla Vilay	男
2	Mr.Phonekeo Chanthamaly	男
3	Mr.Sihattha Latsaphon	男
4	Mr.Latsadakone Soudachanh	男

<ラオス>スタッフ:7名

NO	氏 名	性別	所 属
1	Ms.Kongkeo Tounalom	女	ラオス盲人協会 所長
2	Mr.Pratya Wimanrat	男	同上アドバイザー

NO	氏名	性別	所属
3	Ms.Sibanh Khoukham	女	同上 会計
4	Ms.Somphavanh Sittideth	女	同上 秘書
5	Ms.Monika Thipphalangsy	女	同上 アシスタント
6	Ms.Viangkham Manhoulith	女	同上 アシスタント
7	Mr.Oudone Souphatthone	男	同上 アシスタント

＜ラオス＞現地協力団体ADDP:2名

NO	氏名	性別	所属
1	小林 すみ	女	ADDPアドバイザー
2	前島 由希	女	ADDPアドバイザー

＜カンボジア＞ 受講者:10名

NO	氏名	グループNO	性別	視力	マッサージ歴
1	Mr Yin Phai	1	男	弱視	5年
2	Ms Kim Srey Nich	1	女	弱視	5年
3	Mr Sam San	2	男	弱視	6年
4	Mr Huy Phary	3	男	弱視	4年
5	Ms Ung Siv Teing	3	女	弱視	10年
6	Mr.Soe Prak (ProfessionalABC Massage)	4	男	弱視	3年
7	Mr Mang Kim Leap	2	男	全盲	4年
8	Mr Phoung Visak	5	男	弱視	7年
9	Mr.Ung Sothy	5	男	弱視	12年
10	Ms Seng Sodany	4	女	全盲	4年

＜カンボジア＞通訳:3名

NO	氏名	性別
1	山崎 幸恵	女
2	奥澤 俊 (カンボジア人)	男
3	Mr. Ouk Long Dy	男

＜カンボジア＞スタッフ:5名

NO	氏名	性別	所属
1	Mr.Boun Mao	男	カンボジ盲人協会 会長
2	Mr.Nuth Samphy	男	同上、アシスタント
3	Ms.Choeun Putheary	女	同上、アシスタント
4	Ms.Boun Amara	女	同上、アシスタント
5	Mr.Heng Chheang Kim	男	同上アシスタント
6	Mr.Chan Sarin	男	通訳アシスタント

別紙1

日本における視覚障害者のIT事情

藤井先先の話

話の主旨は視覚障害者の仕事としてマッサージが重要であること、その為には教育が必要であることを話します。

まず始めにニュースがあります。こちらのシーングハンズで働いているニカさんが7時のNHKニュースで大々的に報道されました。3週間程前のことです。10分程の番組でしたが内容はニカさんが2004年に沖縄プロジェクトに参加し、そこで学んだ技術で公務員の何倍もの収益を受けているとの話です。沖縄で教えた一人として大変嬉しかった。実は昨日、ABCの治療室で3人がマッサージを受けました。患者さんのベットが満室になるのを見て、ニカさんの話は本当だと感じました。

私が何故マッサージを受けたもう一つの理由はラオス、カンボジアの料理が美味しく、飲み過ぎたり食べ過ぎたりしました。そのせいでお腹の具合は少し悪くなりました。お腹が悪くなると背中に痛みが出ます。このお腹の痛みと背中の痛みを取りたくてマッサージを受けました。受けた感想です。まずお腹と背中の症状はきれいに無くなりました。お陰で又、昨日、お酒を飲むことが出来ました。

このようにあんまマッサージは視覚障害者の自立の仕事であるとともに、人の健康の具合の悪い症状を取る素晴らしい仕事なのだと感じました。

それからもう一つの感想、皆さんの技術の素晴らしさに感動しました。おそらく日本でニカさん、ソティさんが日本のあんまをベースにしてカンボジアで自分達の手技を加えた素晴らしいものだと感じました。日本では視覚障害者でマッサージをしたいと思う人は誰でも教育を受けることができます。

このシステムは300年程の歴史の中で出来上がってきています。その日本の歩んできた話をしたいと思います。まず日本の視覚障害者が社会の一般の人と同じ仕事ができるかという点と違いますが。

サービス、製造業等につこうと思っても目が見えないことが障壁になっています。一般の人と同じに出来るは教育、政治などごく一部の限られたものです。しかし日本の視覚障害者はあんま、ハリ、灸を伝統的に引き継いできた幸運があります。これらのあんま・ハリ、灸の仕事にも経済的、社会的にも自立し、社会に大きく貢献しています。ではその生業の制度を説明していきます。まず、あんま、ハリ、灸を高等学校で終わった後、3年以上の教育を受けなければいけません。その3年間で3000時間以上の医学の授業を受けます。

カリキュラムは1. 一般教養、2. 解剖学とかの基礎医学、3. 東洋医学関係の専門医学 この3つの分野からカリキュラムが組まれています。あんま、ハリ、灸は専門科目の中で行われます。

現在、視覚障害者の為の盲学校は全国で60校、大学は1校、訓練施設7校、合計68校あります。

これらの施設で3年間勉強してもあんまの免許を取ることはできません。3年勉強した後、厚生労働大臣の国家試験に合格して資格を作ることが可能になります。

医療に携さわる専門職は高卒3年で行われることになります。そういう免許 全国であんま師だけで12万人います。そのうちの4万人が視覚障害者です。そのような人達がどのような場所で働いているかですが、多くの方はマッサージの治療院で働いています。自分に開業している人は3万人。病院、診療施設で1万人働いています。最近では企業の労働者にマッサージを行うヘルキーパーが流行ってきました。

東京や大阪などの大きな企業に500人が働いています。このような素晴らしい恵まれた職業環境は数年、数十年で出来たものではありません。

日本の盲人が職業自立を始める700年前。それはあんま、ハリ、灸ではなく「琵琶」という人。この人達は「当道座」と呼ばれ、16世紀に入ると、この芸術集団はハリ、灸を吸収した形になります。17世紀になると杉山和一という全盲の指導者が現われます。その杉山和一は17世紀の末にあんま、ハリ、灸を教える学校ができます。視覚障害者にこのように教える学校は世界で初めてで初等、中等、高等、最終の4段階でそれぞれのレベルのテキストも出来ていました。系統立てたテキストによってレベルの高い教育がされてきました。18世紀に入ると、この学校は急速に増えました。全国48校できました。

この学校を中心としてあんま、ハリ、灸を生業とする盲人が増えてきます。この過程であんま、盲人。盲人、あんまという日本国民の常識が出来ました。日本では1868年に革命が起きます。この革命によって盲人が受けていた教育が新しい政府に否定されました。1886年のことです。盲人にはハリを教えるてはいけないという禁止令が出ました。この禁止令に対し、盲人達は教育を西洋医学に切り替えるので盲学校でハリ、灸、マッサージを教えることが出来るようにと嘆願を出しました。

その運動によって、「ハリの禁止令」を撤廃しましたが、それは盲人達が作ってきた教育の実績があったからに他ありません。

この後、マッサージ、ハリを盲人がやることを法律で認めるという動きが出ました。1911年にこの運動が実り、あんま、ハリの営業を認める法律ができます。この法律、制度によって100を超える盲学校が出来ました。その小学校で終わって、中学校の4年間であんまを学ぶというものでした。第二次世界大戦で日本は敗戦します。その敗戦後を統治した連合司令部から、「このようなレベルの低い教育では駄目だ」という指令がでます。そこで 更に教育レベルを高くするという盲人達の請願が出て1947年に新しいあんま、ハリ、灸の身分法が誕生します。

この法律が日本のあんま、ハリ、灸の最初の法律(前身法になります。こうして振り返ってみますと最初の段階で教育をしっかりと築くことがとても重要であることが分ります。このあんまの仕事には晴眼者が沢山参加しています。医者、学会とかの圧力も加わりました。免許を持っていない人の侵害もありました。

そのような困難を乗り越える為には教育が必要であることを教えてもらいます。そして、この困難を乗り越える毎に教育等も発展しました。

このカンボジアの国であんま、ハリ、灸を更に発展させる為にはアジア全体のレベルを引き上げることが必要です。日本にとっても手技、あんまの技術を上げるにはアジア全体の発展が必要と考えています。日本が教えるという立場でなく、同じ仲間として刺激しあい、成長していきたいです。最後に申し上げたいことがあります。日本のあんまとカンボジアのあんまの違いがどこにあるかということです。手技それ自体はカンボジアの手技は素晴らしいと思います。昨日から受けたマッサージレベルは日本より高いと感じました。しかし、日本のあんまは解剖学、生理学とか医学的学問の裏づけがあります。

例えば背中が痛いので背中を強く押ししてもらいました。しかし、背中が痛いのがどうして起きたかの原因を調べるのが重要です。内蔵に障害が出て背中が痛みます。背骨が悪くても背中が痛みます。運動のし過ぎで筋肉が腫れても背中が痛みます。痛みの原因をはっきりした診察をした後でなければ正しい治療はできません。日本のあんま教育は症状の原因をしっかりと見極める力をつけ治療するのが日本式のあんまです。

これが医療あんまに他なりません。カンボジアのあんまはその手技に解剖学を裏付けてやる必要があると感じました。日本は300年近くかかったので、カンボジアでもすぐには出来ません。時間をかけて地道な努力を続けることによりカンボジアはアジアになると思います。その為の支援を私達は行いますので頑張ってください。これで話を終わります。

別紙2

日本における視覚障害者のIT事情

長岡先生の話

藤井先生が教育が大切だという話をされました。教育の基本となるのは文字の読み書きが出来ることです。情報の読み書きが出来ることです。情報の読み書きを情報アクセスと言います。視覚障害者の情報アクセスがITの利用によって近年、大きく変わりました。今日はその話をします。今、ここでは私達は視覚障害者のマッサージ業をより良い仕事に育てていくには文字の読み書きが出来ることがとても大切であることを理解しておきましょう。

あんまマッサージにおいてラオスよりも少し先輩、お兄さんの日本の現状についてお話します。日本における視覚障害者の読み書きの現状です。視覚障害者も努力すれば文字の読み書きが可能になります。目の全く見えない人も点字を覚えて、点字の教科書を使ってあんまやマッサージの勉強をしています。先ほど、ハリ、灸、あんまマッサージの国家試験があるという話がありました。その試験も点字で受けることができます。ですから、目が全く見えなくても、点字ができれば国家試験を受けて、国の資格を取ることが出来るのです。目の全く見えない人にとって点字はもっとも確実な手段です。日本には約30万人の視覚障害者がいます。そのうち約10%の人が点字を使っています。点字は1825年にフランスのルイブライユという人によって作り出されました。1890年に日本語の点字が作られました。点字を書く道具にはいろいろな種類があります。1点ずつ打つ点字板があります。その一つに簡易型の点字器があります。後ほどお見せし、皆様に差し上げる物です。点字をもっと速く書く道具として点字タイプライターがあります。最近では点字を読んだり書いたりする為にPCが多く使われるようになりました。点字は視覚障害者にとって便利な道具であることは言うまでもありません。

次に録音についてです。文字そのものではありませんが、情報の記録や利用に録音が役に立っています。日本では1950年代の後半から家庭用のテープレコーダが普及しました。これによって皆が録音できるようになりました。これは大きなリールを使うオープンテープの方式のテープレコーダでした。1960年代の後半にはカセットテープレコーダが登場しました。これによって視覚障害者による録音の利用が急速に普及しました。1990年代になると録音がアナログ方式からデジタル方式に変わりました。記録媒体がテープからディスクになりました。最近では更に、ICに変わりました。小型でしかも長い時間の録音や再生が出来るICレコーダが使われるようになりました。(ここで音を再現)これは、先ほど障害者のITグループに行った時に録音したものです。手に握れるくらいの小さなものですが、これに何10時間もの録音ができます。小さなスピーカですので余り良い音ではなかったと思いますがヘッドホーンで聞くととても良い音です。これは視覚障害者が情報を記録したり利用したりするのにとても便利なツールです。

次にPCによる文字の読み書きについてお話します。PCが視覚障害者による普通の文字の読み書きを可能にしました。といってもPCがあるだけではそれはできません。それは画面に表示され

る文字や絵を視覚障害者は読み取ることが出来ないからです。そこでスクリーンリーダーというソフトウェアが開発されました。これは画面に表示されている文字等を機械が作り出す声で読み上げるソフトウェアです。今、日本ではWindows用のスクリーンリーダーが7種類使われています。それによって視覚障害者は便利にPCを使うことが出来るようになりました。一部のスクリーンリーダーはこの1月に発売されたWindows Vistaにも対応しています。それらのスクリーンリーダーを使って視覚障害者はPCをさまざまに利用しています。普通の文字を書くこと、印刷物を読むこと、計算、データ処理、音楽データを処理すること、そして点字の読み書きもPCで行われています。キーボードで入力された点字をピンディスプレイ端末(ブレイルディスプレイターミナル)に示しながら点字を書きます。PCに点字ディスプレイ装置をつなぐとキーボードから入力した点字をすぐに読み返すことが出来ます。間違えたところがあつたらすぐに直すことができます。そのようにして作った点字のデータを点字プリンター(エンボッサ)で打ち出すことが出来ます。日本では20種類を越える点字プリンターが使われています。遅いものから速いもの、とても静かなものから大きな音のするものまで、様々な機種が使われています。このようにPCを使って点字を処理するとあんまやマッサージの教材を作ったり、利用したりすることが出来ます。視覚障害者がPCを使う目的として、最近ではインターネットへのアクセスがあります。Web ページを読んだり電子メールをやり取りしたりしています。勿論、PCに声を出させたり、点字を出力させたりしてそれらのことを行っています。

次にPC以外のIT機器についてお話します。最初は、音声ガイド機能を備えた携帯電話です。日本では多くの視覚障害者がこれを使って便利に生活しています。プッシュボタンを押すと、それに対応して画面を読み上げたり声で説明したりします。(ここで、実際に携帯電話の音声ガイドを実演)このように声で読んでくれます。電話の便利な機能が使えるほか、電子メールのやり取りやインターネットへのアクセスも可能です。最近ではデジタルカメラを使って、自分で写真をとることが出来ます。自分で撮った写真をインターネットで人に送ることが出来ます。自分では写真を見ることが出来ませんので、送った相手の人にどんな写真かを聞くこともあります。このようにいろんな情報を扱うことが出来るようになってきています。

次にデージーについてお話します。デジタル、アクセシブル インフォメーションシステム、デージー。視覚障害者用のデジタル録音図書がデージーという規格で世界的に統一されてきています。日本はデージーを作る上で大きな役割を果たしました。またデージー図書を聞くためのプレイヤーや、PCでデージー図書を作るためのソフトウェア等を日本は沢山開発しています。これまでのデージー図書はCDに録音されていましたが、デージー録音図書をインターネットで聞けるサービスも始まっています。デージー図書はカセットテープの録音図書と違って聞きたい箇所へすぐに移れたり、速度を変えて聞けたりと、とても便利です。しかも1枚のCDに何10時間もの録音を収めることが出来ます。あんま、マッサージの教科書が最近ではデージーで作られるようになりました。これによって能率良く勉強が出来るようになっていきます。

次は弱視者用機器です。弱視者の読み書きには拡大読書機やレンズが役立ちます。拡大読書機はCCTV といってテレビカメラと画面が一つになった機械です。弱視の人たちが文字を拡大して読むための装置です。最近では小型のテレビカメラや液晶画面を使った小さくて便利な拡大読書

機が何種類も開発されています。また弱視者がPCを使うときは表示を拡大したり色を調整したりするソフトウェアも使われています。このように弱視者にとってもITが便利に利用されています。同時に弱視者用の文房具も、とても便利です。先ほど、皆さんにお渡しするものとして紹介されたノートがその一例です。これについても後で説明します。

次に、「視覚障害者の情報アクセスを助ける社会の取り組み」について話そうと準備していましたが残り時間が少ないので省略させていただきます。アウトラインだけお話しします。

最初は教科書の話。2番目が図書館の話。3番目が情報メディアの話。情報メディアとは新聞、雑誌、放送などです。さらにボランティア活動の話。そして国や地方自治体、企業などが行っている情報提供について話をしようと思っていました。最近では日本の会社は視覚障害者の為にいろいろな情報を点字や録音で提供しています。ここに有るのは点字のカレンダーです。東京にあるテレビ局が毎年作って、全国の視覚障害者に提供しています。点字だけでなくきれいな絵も描かれていますので協会に飾って置いて下さい。インターネット上の視覚障害者関連のメーリングリストやWebページについてもお話ししようと考えていました。

最後に、働いている視覚障害者の読み書きを助けるアシスタントに関する国の制度についてもお話する予定でした。これらについては次の機会にご説明いたします。

最後に小型の点字器と弱視者用のノートについて小野瀬さんから説明をしてもらいます。

小野瀬さんより説明

点字器は二つに開くようになってその間に紙をはさんで使います。28マス。19行まで書くことができます。

弱視者用ノートは大きな文字をまっすぐ書くように太い横線が書かれています。大変便利なものなので活用して下さい。

質問: IT関連のソフトについて話をしてもらいましたが、ノートPCにも対応していますか？

回答: しています。

質問: 日本の視覚障害者の方で7つのプログラムのうち良く使われているのは何ですか？

回答: スクリーンリーダで、一番使われているのは日本で開発されたもので、PC-Talker と言います。日本以外で開発されたものは「Jaws」と言います。

質問: PC-Talker は日本語だけしか対応していませんか？

回答: 残念ながら日本語だけです。

質問: サイソンプと言います。説明の中でデジタル録音機がありましたが10時間以上録音できる機械はどのくらいします。

回答: 38時間録音できるものもあります。値段は2万円ぐらいです。視覚障害者が使いやすいものは少し高いです。

終了: 3時35分

ຝຶກອົບຮົມການນວດແບບຍີ່ປຸ່ນ ຂຶ້ນພື້ນຖານໃຫ້ຄົນພິການຕາ

* ໃນວັນທີ 10 ຫາ 11 ມີນາ 2007 ຜ່ານມາ, ທີ່ໂຮງແຮມລາວຟລາຊາ, ຫ່ວຍໆ ການຄົນພິການຕາລາວ ໄດ້ ຮ່ວມກັບ ມະຫາວິທະຍາໄລເຕັກໂນໂລຢີ ຊິງປູະ ຈາກປະເທດຍີ່ປຸ່ນ ນຳ

ໂດຍທ່ານ ສາສະດາຈານ ອູອິຈິຄາ ຕາຍ ເປັນຫົວໜ້າຄະນະ ໄດ້ຈັດ ການຝຶກອົບຮົມການນວດແບບຍີ່ ປຸ່ນ ຂຶ້ນພື້ນຖານໃຫ້ກັບຄົນພິການ ຕາລາວ.

ເຂົ້າຮ່ວມການຝຶກອົບຮົມຍີ່ປຸ່ນ ຜູ້ພິການທາງສາຍຕາເຂົ້າຝຶກອົບ ຮົມ 50 ຄົນ, ແບ່ງອອກເປັນ 2 ກຸ່ມ ຈຸດຝຶກອົບຮົມກ່ຽວກັບໂອທີ ແລະ ຈຸ ຝຶກອົບຮົມກ່ຽວກັບການນວດແບບ



ビエンチャン タイムズ(3月15日付け)

Massage and IT: future jobs for the blind

PHAISITHONG CHANDARA

TRAINERS from the Lao Association of the Blind will soon benefit from equal job opportunities in the field of massage and information technology.

A two-day training course was held last weekend at the Lao Plaza Hotel in Vientiane, where 10 blind trainees from the association attended a short course on massage and information technology.

The programme was run by experts from the Tsukuba University of Technology, with the support of the Nippon Foundation and the Lao Association of the Blind.

The objectives of the training course were to introduce the trainees to the skills of Japanese massage, as well as basic computer training, as a way of boosting opportunities for the visually impaired in Laos.

The President of the Lao Association of the Blind, Ms Kang or Trunatham, said all trainees would benefit through

developing their skills sufficiently to have better job opportunities in the field of massage and information technology.

Ms Kungken said the association planned to take those who had attended the course to deliver lectures on their experiences to other blind people around the country.

The Japanese trainees spent the first day teaching basic computer principles and skills, and explained how important information technology was in the country's socio-economic development, but that many people still lacked the skills in Laos, especially blind people.

On the second day, the trainees learned massage techniques on the torso, head, shoulders and back, and practised on each other.

A professor from the Faculty of Health at Tsukuba University, Mr Shuchi Kato, who accompanied the trainees, explained that more and more people throughout the world were relying on information technology to receive information and to connect to

others.

Mr Kato said to build the Asian Medical Massage Instructor network was the main goal of the project and it was the first time to hold the seminar.

He said this course would provide a great advantage for blind people, as it could significantly change the methods of education and rehabilitation for a visually impaired citizen.

In January, the Asia Development with Disabled

People cooperated with the Japanese International Cooperation Agency supported a two-day information technology course for disabled and disabled people at the Ministry of Labour and Social Welfare in Vientiane.

The course followed on from the first information technology seminar for disabled people organised by the Ministry of Labour and Social Welfare and the Lao Disabled People's Association in 2005.

Lao Press in Foreign Languages

Director General: S. Vankhina, Ruzmouay

Vientiane Times is published by Lao Press in Foreign Languages

Vientiane Times

Established in 1994, Volume 13

Editor-in-Chief: Soudkheua Ruzmouay

Deputy Editor-in-Chief: Phangkhaik Chemsomkha

Tel: 856-21-216364

Dangwanee

Tel: 217593 Mobile: 5599208

g.m.l.l.stand.ann.ann.ann.ann

News Editor: Phoua H. Lee

Tel: 217593 Mobile: 5624251

883826312294362626

00
ise
ge
pe
he
ur

we
di
DW
fr
co
the
58

lev
inc
de

138
58
74
48
29
61
52
95
74
138
64
74
130
02
74
Ma
Pik
Tel
9-1

ビエンチャン タイムズの訳文

「マッサージとIT:も偉人の将来の仕事」

ラオス盲人協会の訓練生は日本の専門家により学んだ技術のお陰でマッサージとIT分野において近いうちに健常者と同じ職業機会を得る恩恵を得られるだろう。

2日間の訓練コースがビエンチャンのラオプラザホテルにおいて10人の教会の盲人がマッサージとITの短期コースに参加して行われた。

そのプログラムは日本財団とラオス盲人協会の協賛のもと筑波技術大学からの専門家によって行われた。

その訓練コースの目的はラオスの視覚障害者の為に機会を設けることにより日本のマッサージ手技のみならず基本的なコンピュータ訓練を訓練生に紹介するものであった。

ラオス盲人協会の会長のコンケオ氏は「全ての訓練生はマッサージとIT分野の中でより良い仕事を得る機会を得るために十分に彼らの技術を開発することにより利益をうけるであろう」と語った。コンケオ氏は協会は今回のコースに参加した人に自分たちの経験を国内の他の盲人に伝える計画であると語った。

日本の講師陣は初日をコンピュータの基本原理と技術を教えること、および情報技術が国の社会経済発展に、重要であるか、しかしながらラオスの多くの人々、とりわけ盲人にとって不足していることを説明した。

二日目は受講生は胴、首、肩そして背中におけるマッサージ技術を学び、お互いに実践しあった。

筑波大学の保健学部の教授、形井氏は講師陣として参加しており、もっともっと世界中の人々は情報入手にお互いに連携を取るために情報技術を活用すべきだと説明した。

形井氏はAMINを作ることはこのプロジェクトの主な目的であり、そのセミナーを開催することは今回が初めてと語った。

彼はこのコースはすべての視覚障害の市民にとって教育とリハビリテーションの方法に非常に大きな変化を与えるので、盲人にとって大きな利益を与えるだろうと語った。

1月に、アジア開発障害者団体は日本国際共同機関と共同でビエンチャンの労働社会福祉省において60人の強健な盲人に対して2日間の情報技術のコースをサポートした。

そのコースは2005年ラオス障害者協会と労働社会福祉省によって構成された障害者に対して最初の情報技術セミナーから続いている。

別紙4
物品送付表

送り先 ラオス

NO	送付物	数量
1	白衣(L)男	5枚
2	白衣(M)男	3枚
3	白衣(S)男	1枚
4	白衣(M)女	4枚
5	携帯用点字版&点筆セット	20個
6	点字用紙	200枚
7	コンベンションバック	10個
8	大活字出版の「罫線の太いノート」	50冊
9	手ぬぐい	10個
10	資料(袋入り)	2個
11	盲人用オセロ	1個

送り先 カンボジア

NO	送付物	数量
1	白衣(L)男	10枚
2	白衣(M)女	3枚
3	携帯用点字版&点筆セット	20個
4	点字用紙	200枚
5	コンベンションバック	10個
6	大活字出版の「罫線の太いノート」	50冊
7	手ぬぐい	10個
8	資料(袋入り)	2個
9	盲人用オセロ	1個
10	「みんなの日本語」墨字版	1冊
11	「みんなの日本語」点字版	1冊
12	「みんなの日本語」テープ版	1セット

別紙5 ラオス写真集



開校式 形井先生挨拶



日本財団 石井氏挨拶



講演 藤井先生



講演 長岡先生



講演を聴く受講生



あんま講習 藤井先生



あんま講習 形井先生



ホテルで打ち合わせ



交流会 コンケオさん挨拶



交流会 受講生



夕食会 坂井元大使



タイ式マッサージ体験



閉講式 小野瀬先生



閉講式 ラオス受講生



参加者 記念撮影



評価会議

カンボジア写真集



ABCにて打ち合わせ



開講式 形井先生挨拶



開講式 受講生



あんま講習 坂井先生



あんま講習 藤井先生



あんま講習 形井先生



ハリの実技1



ハリの実技2



ABC との夕食



シーングハンズ見学



カンボジア受講生



外での昼食



閉講式 プンマオ氏挨拶



閉講式 日本財団 石井氏挨拶



修了証の授与式



評価会議